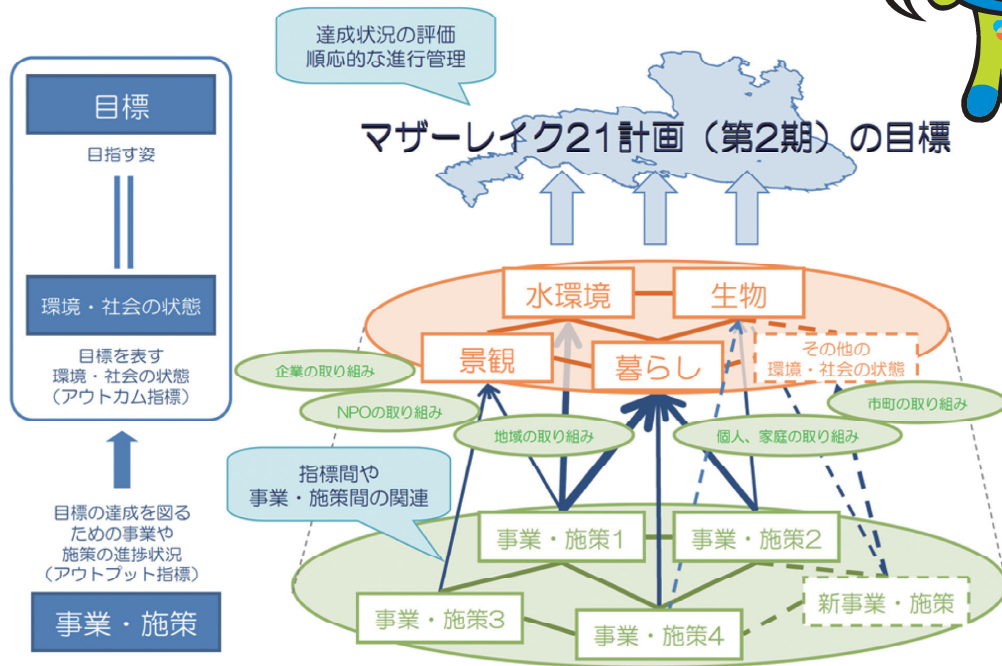


② 2種類の評価指標

2種類の指標で計画を評価するんだね。



これまで、計画の成果は主に個々の事業や施策がどのくらい進捗したかで評価してきました。しかし、重要なのは、事業や施策を実施した結果が、琵琶湖の保全につながっているかどうか、つまり、琵琶湖や流域の水質や生き物の状態が改善されたかどうかということです。

このことから、第2期では、**施策の進捗状況を表す「アウトプット指標」**に加えて、**環境や社会の状態を表す「アウトカム指標」**を設定することにしました。

また、個々の指標は独立して存在しているわけではなく、相互に密接に関連しています。目標の達成に向けて、指標がバランスよく改善されているかどうか、想定外の障害の兆しが現れていないかどうかは順応的な進行管理の仕組みの中でチェックします。

「アウトプット指標」の例

汚水処理施設整備率 水稲における環境こだわり農産物栽培面積の割合 ニゴロブナの種苗放流尾数 水草根こそぎ除去面積 ヨシの植栽面積 年間間伐実施面積 びわ湖まちかどむらかど環境塾開催地区数 「おいしがうれしが」キャンペーン登録店舗数 マザーレイクフォーラムへの参加団体数 など

「アウトカム指標」の例

琵琶湖の水質 赤潮・アオコの発生日数・水域数 ニゴロブナの漁獲量 外来魚生息量 水草群落面積 琵琶湖のヨシの面積 カイツブリの生息数 月1回以上湖魚料理を作り・食べる人の割合 琵琶湖や河川を大切に思う人の割合 など

③重点プロジェクト

目標の達成に大きく貢献することが期待でき、関連機関が連携することでさらに効果を高めることができる事業・施策を重点プロジェクトと位置づけ、集中して取り組みます。

目標の達成に向けて取り組むプロジェクトだ。



「近い水」のある暮らし再生プロジェクト

水と関わる生活、文化、歴史が息づき、人々が日常生活の中で琵琶湖の恵みを楽しみ、琵琶湖への感謝と気づかいが根付いている「近い水」のある暮らしを実現します。また、下流淀川流域の人たちにも呼びかけ、下流への思いやりと上流への感謝が重なる「飲水思源^{*}」の気持ちを育み、取り組みを一層広げます。

※「その実を落とす者はその樹を思い、その流れに飲む者はその源を思う」という、北周の詩人・瘞信の「徴調曲」という詞に基づく故事成語。飲み水の源を忘れないようにすること。

琵琶湖の生きものにぎわい再生プロジェクト

南湖再生プロジェクト

良好な環境と適正な人間活動とのバランスの中で、水草の繁茂状況をかつての状態に戻すとともに、ニゴロブナ・ホンモロコ・セタジミの漁獲量を回復します。

内湖再生プロジェクト

内湖を再生することにより、在来魚や希少動植物など豊かな生態系を回復するとともに、暮らしを湖に近づけ、琵琶湖と人とのより良い関係を築き、地域資源を活用した社会成長を図ります。

外来生物等対策プロジェクト

琵琶湖の生態系にとって喫緊の課題となっている外来魚やカワウ、外来水生植物等の駆除を図り、在来生物の生息・生育環境を回復させます。

森・川・里・湖のつながり再生プロジェクト

流域を一つの系として保全するための取り組みの方向性を各主体・施策間で共有し、森・川・里・湖のつながりを生態系と暮らしの両面において再生します。

水環境の保全プロジェクト

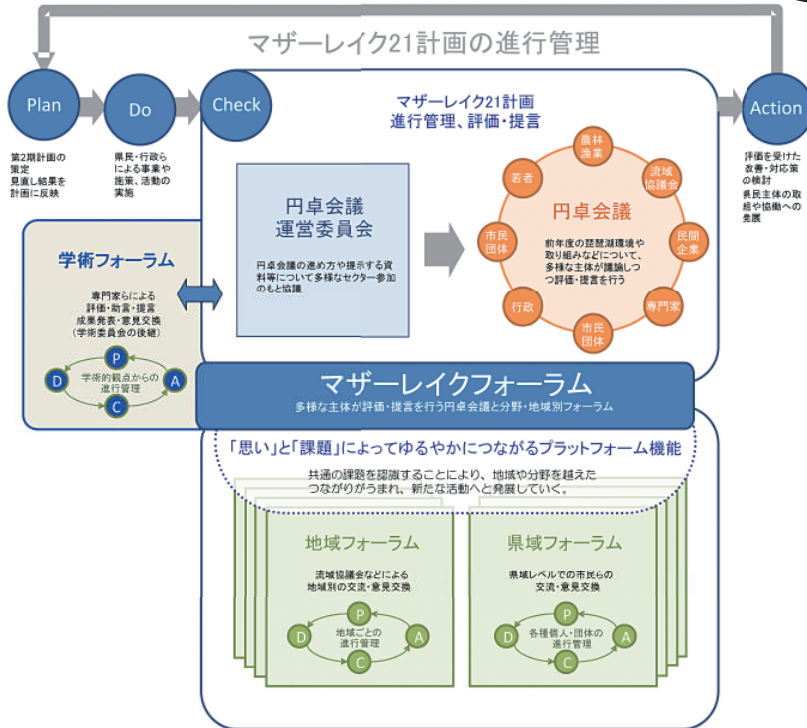
琵琶湖の水質汚濁メカニズムを解明し、新たに設定した汚濁指標に基づく水環境の保全対策への道筋を明示します。



作：成安造形大学
石田恵理 数野なぎさ 柴田翔子 (2011)

④ マザーレイクフォーラム

みんなの参加
で計画を進め
ていこう。



計画の進行管理では、具体的な事業や施策の内容だけでなく、状況に応じ、目標や指標も修正を加える「順応的管理」という手法を取り入れます。

計画は、2種類の指標を用いて複層的な評価を行います。その際に多くのみなさんの参画の場となるのが「マザーレイクフォーラム」です。

マザーレイクフォーラムは、県民、事業者、専門家、市町、県などの様々な立場の人たちが、琵琶湖を守りたいという共通の「思い」と「課題」によってゆるやかにつながると同時に、みんなで計画の進行管理を行う場です。

そして、①琵琶湖流域の生態系の現状を確認し合い、②自らの暮らしと湖の関わりを振り返り、③今後の取り組みの方向性を話し合い、④相互のつながりを築きながら、それぞれの取り組みをさらに強みを活かしたものへと高めていく場でもあります。

マザーレイクフォーラムでまとめられた意見や提案は、県の施策にも反映させていきます。

これらの取り組みを通じ、下流淀川流域のみなさんとも手を取り合って県民総ぐるみで計画目標の達成を目指します。

2050年頃のあるべき姿

琵琶湖の水は、あたかも手ですくって飲めるように清らかに、満々として

春には、固有種のホンモロコやニゴロブナ等がヤナギの根っこ、ヨシ原、増水した内湖や水路等で産卵し、周囲の山並みは淡緑、淡黄等のやわらかな若葉と、常緑の樹々の鮮やかな彩りをみせ

夏には、緑深い山から吹く風が爽やかに湖面をわたり、湖辺の公園では、水遊びする人びとの姿が見られ、足もとにはさらさらした砂地と固有種セタジミの感触

秋には、固有種のビワマスが体を赤く染めて河川や水路を山里深く遡上して、豊かな森の土に育まれた水量豊富な溪流で産卵し

冬には、えり漁を背景にカモが群れ遊び、湖辺では荒田起こしの作業の側で、サギが餌をついばむ



作：成安造形大学
中浜稔文 中村亮太 (2011)

目を転じれば、街中には四季を通じて小川が清らかに流れ、夏にはホタルが舞い、遠くから祭の囃子が聞こえ

近所の水辺には遊んでいる子どもたちの笑い声が響き、子どもたちを温かく見守っている大人たちの姿がいつもあり

光と風、木々や花々に季節の移ろいを感じながら、家にあっては、県内産の木の香りと温もりに包まれ、湖や地元でとれた旬の幸を家族や友人とともに味わい

どの生業（なりわい）も地域に深く根を下ろし、働くことへの悦びに人びとの顔が輝き

語り合い、ともに支えあい、湖への感謝の心と気づかひをつねに忘れることなく、琵琶湖を中心とする自然の大きな環のなかに、人びとの輪に根ざした暮らしがある



琵琶湖総合保全整備計画
「マザーレイク21計画」＜第2期改定版＞
平成23年(2011年)10月28日改定

発行：平成24年3月
発行者：滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖政策課
〒520-8577滋賀県大津市京町四丁目1番1号
077-528-3463(直通) dk00@pref.shiga.lg.jp